いわき民報

所行發　社報民きわい
平市田町四八番地三八一番
編輯兼發行人　千葉克己
印刷人　千葉
（但月曜を除く）
定價一月十五円一部五十錢

第一校問題三名告發

十七日眞木、高木兩委員から

平第一小學校建築にからむ不正事件は、既報の如く市會の決議に依つて告發することになつた爲成行きを注目されていたが、鈴木市長は告發人たることを避け、十七日平檢察廳へ福島辯護士會長北川次男氏を代理人とし、調査委員長眞木恒、同副委員長高木喬兩名に依つて左の三名を告發した

◇前平市復興課長、小沼德彌◇三幸土建會社支配人、篠崎彥三郎◇土木請負人、佐藤滿江

告發理由は市會調査委員會の調査報告書を骨子として居り、三名を綜合して「文書僞造行使詐僞、脅任橫領、竊盜」という罪名である、平檢察廳では直ちに取調べを開始し、眞相を究明することになつた、

各校兒童生徒總出動

あすから街頭共同募金開始

共同募金の街頭運動はいよいよ十九日から二十五日まで市內各中小學校の生徒兒童たちの協力に依つて次の日割で開始される

◇十九日（午前）磐中（午後）磐城高女◇二十日平商平女商◇二十二日平工、平高女◇二十四日平商、平女商◇二十六日平工、平高女

なお隣保館の幼兒達はこれに先立ち十七日平驛前で行つた

共同募金 內鄉支部

三十日から開始

社會事業共同募金內鄉町支部は山崎町長を會長に、蒲生正利氏を常任委員に推して發足したが、いよ〳〵二十日から青年會、民主委員、婦人會、兒童生徒を總動員で大々的に街頭、戶別及び特殊の三方法に分けて募金豫定二十万四千二百円突破を目指して一齊に活動を開始することになつた

町營住宅は 二十戶を

四倉町の計劃進む

四倉町では住宅難の緩和をめざしかねて計劃中の町營住宅を全町田戶の國有林を拂下げ受けて二十戶を新春早々建設することゝし目下諸準備を急いでいるが、これと同時に隣保館をも設置することになり期待されている

湯本町都市計畫委員會

湯本町都市計畫委員會は十九日午前九時から役場會議室で舊校舍敷地區域設定の件を協議する

讀賣新聞を 又告訴

金古議長も憤慨

金古市會議長は過般讀賣新聞平通信部主任廣邊正義氏が「金古議長等が黑幕」と書いた記事について名譽毀損の告訴を提起したが、更に去る九日福島版へ「市會で提案されず質疑の無かつた無根の事實を報道し名譽を毀損された」廣邊主任及編輯局長、署名人を告訴した

家宅侵入罪

高木市議を告訴

昨報、金古市會議長は松山疎開先の材木問題で市議高木喬氏を告訴したが、名譽毀損の他家宅侵入罪も加へられてる

市農產品 評即賣會

あすから三日間 第四小學校內で

市農業會並に農事協議會では共催で十九、二十、二十一日の三日間、市內第四小學校に鄉土農產品評會を開催、出品の丸公即賣會も行う

最後は强權も發動

小名濱食調委員會の態度決る

小名濱町食糧調整委員會は十七日開いて、全町の供米は個人割當も決定、既に供出を開始しているにもかゝわらず、例の分村問題で喧しく活躍した住吉部落の野崎藤太、岡本豐、大原部落の駒木根銀平の三氏が割當不當を鳴らし供出拒否の態度に出ているので實行組合長から報告、善處方の希望があつたので、右について懇談の結果、他にも影響するところが大きいからと、場合に依つては斷乎强權發動もなすべく態度を決定、一切を役場經濟課に一任した

市町村總務 主事協議會

市及び郡下町村農業會總務主事協議會は二十日午前十時から本社ホールに開き、農業協組合同法制定に伴う協組の設立、農業會解散事務手續並に全財產分割の具体的な措置指導法について打合せる

湯本町で 經濟懇談

湯本町の經濟懇談會は十八日午後一時から役場會議室で年末に對する經濟界の動搖を防ぐため協議した

炭鑛人藝能 豫選大會

二十一日古河鑛で

東北炭鑛人藝能コンクールの第一次豫選は二十一日古河炭鑛で開催されるが、參加者はいづれも目下猛練習をつづけている、現在までの申込みは左のとおりで、こゝ兩三日中にどつと申込まれるものとみている

◇常磐湯本鑛六坑佐藤勇、馬場郡夫◇日曹赤井鑛佐藤廣瀨、西山武、歌川榮一、小沼典義、佐藤正吉◇小田鑛熊谷三四子、佐藤清、道山修治、鴨原正、箭內キクイ、石井政義、箭內文

嫁仕度を巧みに詐取

圖太い男遂に平署に御用

住居不定漁夫秋山榮三郎（三一）は十二日頃、青森から平方面に稼ぎ口を見つけに來て平驛で知り合つた高久村大字山口志賀タマさん（三〇）と植田町無職綠川秀一さん（二五）の二人を一緒にさせてやると巧みにもちかけ同日午後一時頃高久村の志賀さんの實姉宅を訪れて納得させ嫁支度にと掛布團二枚、米五升、反物一反等を詐取し、うち反物一反を平市內で千円でばらしたこと發覺、十七日平署へ御用

新春上映の名畫

エノケンの ちやつきり金太

鄉內 第二イワキ

飛降り損い 訓導轢かる

湯本町裏町內鄉町小學校訓導鯨岡達治さん（二三）は十八日朝七時四〇分頃水戶發の下り列車から綴驛ホームに飛降りようとして運惡く車輛に引掛り約五十米位引連れて即死

いわき寸言

◇賃金が高いといつても物價に較べてはと勞務者も嘆く、嘆かぬお人はドナタかな

◇押詰つた年の瀨の物騷さ加減、もたぬものは幸なるかなの世か

◇ウルサイ世の中、コワイ世の中、これではいいところは一つもない平市も困つたものデスナ

消す姿 いよいよ 小額紙幣

3月限でお名殘り

五十錢紙幣が姿を消します臨時通貨法によつて現在出ている五十錢紙幣は富士山は兎も角靖國神社等は今日圖柄も適當でないので、双方ともこの際廢止、併せて大正六年勅令で發行され全九年法律で繼續發行を認められた舊五十錢を始め二十錢、十錢等の紙幣も同時に廢止し整理される、通用期限に關する法令公布は法律案審議の關係上、明

Xマスツリー
及び材料
可愛いお子樣方へ贈物
正月用羽根
羽子板、カルタ類
森下商店
平市一丁目

休電日變更お知らせ

毎度有難く御禮申上げます

電力量の割當は十二月から各戶別割當となりまして既に皆樣のお手許にお屆きの事と思はれます　足りない電力を有効に使うよう各位の御協力をお願い致します

なお來週（十二月二十二日）から休電日が左記の通り變りますから御承知願います

◇第一號地　毎週月、水、金曜

◇第二號地　毎週火、木、土曜

【註】第一號地は平、湯本、錦、勿來、鹽田、大利各發變電所より送電分第二號地は木戶、四倉、小名濱、小野新町各變電所より送電分

昭和二十二年十二月十八日

東北配電株式會社平營業所

需用家皆樣へ

昭和二十一年六月一日（第三種郵便物認可）　昭和二十二年十二月十九日　いわき民報　（金曜日）　第四百九十七號　（二）

小名でコノシロ大漁

金太郎船もイワシを水揚げ

イワシ漁の濁流異變に祟られ不漁に、沈鬱氣味にある小名濱に十七日儀助の所有船が全港沖五十カイリでコノシロ五千貫を漁獲、水揚げしたが、何とこの價格百萬円、つづいて金太郎所有船もめづらしいイワシの滿船で歸港したので濱は久方ぶりに活況を呈した小名濱警察部派出所では全部を正式ルートにのせるよう監督にあたつた

サンマ大漁　相場下る

イワシはそっくり加工場へ

十七日コノシロの大漁につゞいて千葉勝浦沖に出漁中の小名濱、中ノ作、江名等の各船團はサンマ群に遭遇し十七日小名、中ノ作、江名に各四万貫、四倉に六千貫と十二万六千貫を水揚げした、このため平地方のサンマも一貫匁百八十円のものが百二十円に値下りをみせ關係業者を喜ばせたなお全日小名濱へのイワシ水揚げに一千貫、四倉六百貫であつたがこれらはいづれも加工場へ流れた

五世帶收容

嫁舍生活者を

四倉町では深刻な住宅難にいまなお五世帶二十二名が嫁舍生活をしているのに鑑み、この寒空に衛生上からもおもしろくないと今度四倉座を利用この五世帶を收容した

田人の追剝

田人村旅人鍛崎與四郎さん（三五）は十四日午後四時頃福田町新辰巳渡部貢三郎さん方から人夫賃五千円と作業衣五着をもつて歸る途中金村荷役夫で四十歳位の男二人と二十五歳前の男二人の四人組に襲われて四千円を強奪された

どうも松竹はこういう題材には成功していない。之が東寶邊りの手に成つたならばまだ〳〵上に行つたと思うストーリーである。

之は事業慾にかられる野心家の行狀を描き出そうとしたものであろうが、余り色々とロケついでに盛り上げて、漠然としたものになつていて何千巻濱ネイ

ミシン

販賣・修理・部品

平二丁目シンガー

イシカワ

灰

讀賣新聞の福島版が平第一校の問題で金古市會議長を黒幕と書いて告訴され、更に八日の市會記事は全然質問されない出たらめ記事を書いてこれ又退告されるなど問題化しているが、十八日附のドップ記事でもとんでもない出たらめを書いて大きい黒星即ち讀賣紙に依ると十六日夜木、北川兩辯護士を告發人として小沼、篠崎、鈴木、佐藤の四名を福島檢察廳へ告發したとするが、これは眞赤な嘘、事實は本紙一面所載通り告發は十七日中檢察廳へ提出され、眞木、高木兩調査員が告發人で北川辯護士は代理人である、讀賣紙に依ると某辯護事の依頼を請うたと附記されているが、誰れの依姿を聞いているのか知れないが、斯う出たらめばかり書くのは、何等か故意が含まれているのではないかとの惡評サク〳〵告發されない鈴木清美さんにまでお氣の毒

原爆の償いにとキリスト敎大學

廣島と長崎を原子爆彈で見舞つた償いとして日本にキリスト敎大學が設立される右は米國ヴァージニヤ州イフォーク市のキリスト敎各宗連合團体が提唱メッジスト派布敎委員會が承認したもの

【錄音放送】

映畫紹介

おスミの持參金

キワ二第から二〇日

東寶映畫——

▲キャスト

おスミ…若山セツコ　楠一六…池部良　信太郎…生方功　お若…河野糸子　復員者山田…河崎靖三郎　サーカス踊子ユリ…木匠久美子

▼ストーリー

山奥の平和な村——この村で生れ、この村で育つたおスミは貧しいけれど心の美しい娘でした。

そして彼女は、幼なじみの楠一六と云う青年と結婚することにきまりました。一六もやはりこの村で生れ、今で本木莊二郎製作、瀧澤英輔演出、キヤメラは川村清衛

といった、東寶映畫——

▲キャスト

おスミ…若山セツコ　楠一六…池部良　信太郎…生方功　お若…河野糸子　復員者山田…河崎靖三郎　サーカス踊子ユリ…木匠久美子

▼ストーリー

山奥の平和な村——この村で生れ、この村で育つたおスミは貧しいけれど心の美しい娘でした。

そして彼女は、幼なじみの楠一六と云う青年と結婚することにきまりました。一六もやはりこの村で生れ、今では東京の小さな工場で働いているのです。

一六と二人の夢、瀧澤英輔演出、キヤメラは川村清衛

昭和二十一年六月一日（第三種郵便物認可）　昭和二十二年十二月十九日　いわき民報　（金曜日）　第四百九十七號　（二）

村から町へ乘合馬車——。

彼女は、馬車の中で氣の毒な人を見ました。それは地主の家に火を付けたと云う疑いで、刑事につれられて行く信太郎に、それを追つて行く彼の許婚お若なのです。

やがて輕便鐵道に乘りましたが、一諸に乘つたお若の哀れな姿を見ると彼女の氣持はもう我慢出來ず、まづお金百円をお若に握らすのでした。

また同じ輕便の中に危篤の母に逢う爲に、サーカスを脫走して貨車の中にかくれていたユリと云う可哀想な踊子にもおスミは同情して殘りの百円をやつて踊子の姿を求めている團長の眼をごまかすため自から身替りとなつて自分の着物とサーカスの衣裳ととりかへてユリを逃がしてやりました。

輕便鐵道がトンネルに入つた時、出口の石壁が少し崩れて、線路を大きな石が邪魔をし、わずかの保工夫では、石をどかせず運轉手は、お客にこれらの人達に喰べさせてやりました。

おスミと輕便車に同乘していた先刻の復員兵は山田といつて彼の證言により、美しいおスミの行動は警察の人達も打たれ罪も晴れました。又はからずもこゝで信太郎の無罪も知りお若と共によろこんだのでした。

妻を亡くして子供をかゝへて困つてる山田におスミは最後に殘つた、メンドリをやつて再び汽車の人になりました人の喜ぶ顏を見て明るくニコ〳〵して笑つているおスミーなつかしい一六の待つている東京へ！。

汽車はただ走る！。

東京に着いた時は、もうなんにもなかつた。

ただ持參金としてあつたものは、彼女、限りない希望と美しい心と、そして大きな幸福だけでありました

評判　花咲けば忘れじ　功　谷　熊

映畫

お願い
來る28日より
1月4日　まで
休ませて載きます

ニコニコパン食
健康　メキメキ
御注文に應じます
平製パン
平市カジ町二七
電話21

◎…大小にかかわらず御注文に應じます…◎

大阪フライゴ
（吹稱＝三升屋平佐工門）
小島製作所
湯本町櫻木町

◇小型自動車修理部
ダイハツ　ダットサン　マツダ
三浦商會
平市　平和通
電八六四番